

平成 26 年度第 10 回青森市子ども会議開催概要

- 1 日時 平成 27 年 3 月 27 日（金） 9 時 30 分～12 時
- 2 場所 青森市総合福祉センター2 階 大集会室
- 3 出席者 平成 26 年度青森市子ども会議委員 13 名（欠席者 18 名）
平成 26 年度青森市子どもサポーター2 名（欠席者 1 名）
市長、事務局 6 名
- 4 次第 **【第 1 部 第 10 回青森市子ども会議】**
 - 1 開会
 - 2 市長あいさつ
 - 3 子ども会議委員から市長へ「平成 26 年度活動報告書」の提出
 - 4 今年度の活動を振り返って
 - 5 閉会**【第 2 部 平成 26 年度子ども会議ご苦労様会】**
 - 1 委員どうしの近況報告、情報交換等
 - 2 事務局からのお知らせ

5 開催概要

今回の会議は、「第 1 部 第 10 回青森市子ども会議」と「第 2 部 平成 26 年度子ども会議ご苦労様会」に分けて行われました。最初に、今年度最後の「青森市子ども会議」となることから、市長からあいさつをいただきました。

【第 1 部 第 10 回青森市子ども会議】

市長あいさつ

皆さん、こんにちは。皆さんとお会いするのは、昨年 11 月に開催された「子どもの権利の日フェスティバル」以来ですね。こうして、皆さんと元気にお会いすることができて、大変うれしく思います。昨年 11 月に開催しました「子どもの権利の日フェスティバル」は、皆さんの力が一つになった本当に素晴らしいイベントになりました。

皆さんの青森市に対する熱い想い、身の回りのことに対しての大人にはない新たな視点など、自分の考えていることを発表する皆さんの大人に負けないパワーを感じました。

そして、皆さんの活動をやさしく見守り、サポートしてくれた子どもサポーターや児童福祉専門分科会の委員の皆さんなど、イベントの成功は多くの方のお力添えがあつてのものと考えております。改めて、感謝を申し上げたいと思います。

このイベントを通じて、皆さんの想い、そしてそれを自由に発表し形にしていく、そのことはまさしく子どもの権利が尊重されているからこそだと、改めて気付かされました。



今回のイベントに私自身も参加し、皆さんの想いをたくさん聞かせていただいて、これからの青森市を作り上げていく子どもたちのためにも、子どもの権利条例をもっと多くの市民の皆さんに理解していただくよう、努めていかなければならないものと意を新たにしております。

是非、これからも皆さんが理解し、体感した子どもの権利をお友達にも広げていってくれるよう、お願い申し上げます。

青森市に「子どもの権利条例」が制定されてから、早いもので2年が経ちました。この条例に伴い、子どもの権利が侵害され、悩み苦しんでいる子どもたちを救済するための相談機関として、「青森市子どもの権利相談センター」を総合福祉センター2階に開設し、今年度はこれまで延べ402件（H27.2月末時点）の相談が寄せられました。皆さんが悩みをかかえたときや皆さんのお友だちが悩んでいそうなときは、ちょっとしたことでもいいので、この相談センターに相談してもらい、子どもたちが、学校や家庭での生活をいきいきと楽しく過ごしていくことができるようになってくれば、そして少しでもそのお手伝いできればと切に願っています。

今日の会議では、この一年間の活動を振り返っての感想をいただきながら、皆さんと一緒にお話をする時間がありますので、子どもの権利を広めるための活動ですとか、子どもにやさしいまちづくりにつながるような活動について、たくさんのご意見を聞かせていただければと思います。

本日は、どうぞよろしく申し上げます。

「平成26年度活動報告書」の提出

続いて、子ども会議委員から市長に、今年度の子ども会議の活動記録を「平成26年度活動報告書」という形で提出しました。



次に、子ども会議委員やサポーターの皆さん一人ひとりから、今年度の子ども会議の活動を振り返っての感想をいただきました。

子ども会議委員・子どもサポーターの発表内容

・実際に他の地域の子ども会ジュニア・リーダー（松本市）と会って、いろいろなことを学べたことが、僕にとっては今年一番大きかったことだと思います。僕たちもちょっと出向いたりして問題を話し合っていければいいのかなと思った年でした。



・私は初めて青森市子ども会議委員になり、最初はすごく緊張していましたが、明るい雰囲気の中ですごく楽しく活動することができました。今年は、アウガで『FOR CHILDREN ～子どもにできること～』というイベントをやらせていただいて、そこで親とか学校の先生とか一般の方々とかたくさんの人に自分の発表を見ていただいたことで、すごく自信になりました。



今回、一年間活動したことで、将来、青森市に地域貢献できるような職業に就きたいなという目標もできました。

来年も、青森市のために、子どもたちの権利のために、一生懸命活動して行きたいです。

・今年度子ども会議委員として、今年初めてねぶたに参加して、いろんな人に子どもの権利というものを知らせることができたと思うので、来年もいろんな活動を通して、いろんな人に「子どもの権利条例」というものを知らせていけたらいいと思います。今年はたくさんのお話を学ぶことができました。



- ・今年初めて子ども会議委員をやってみて、私は初めて子どもの権利があることを知り、それについて詳しく理解しました。私のように子どもの権利について知らない人が、今年を通して、権利について知ることができたので、他の人にももっと知ってもらいたいなと思いました。



- ・今年は2年目で、高校生活の最初ということで、後半は活動できないときもありましたが、ねぶた祭りまでの前半はかなり楽しかった活動でした。来年度も引き続き、権利条例の普及のために頑張りたいと思います。



- ・私は今年で子ども会議委員を続けて5年になりますが、今年ねぶた祭りでの普及活動や、松本市との交流など、5年目にして初めての試みが多くてとても新鮮な気持ちで活動に参加することができました。

また、2回目のイベントも、前回は初めてだったこともあり、大人の方々の力をたくさん借りてやらなければいけないこともあったのですが、今年は子ども主体で、いろいろ子どもだけで取り組むこともできたし、大人からそれほど力を借りずにできたので、すごくよかったのではないかなと思っています。

私は今年で終わりですが、来年からも子どもの権利条例がもっと普及していくことを願っています。



・子どもサポーターをして長くなりましたが、今年度の子ども会議活動も子ども主体の活動が増え、楽しくやれたと思います。私の活動としては、子どもたちの手助けというか調整とかもやって、時々大変だなと思うこともあったんですけど、皆さんの力というのがとても強く、とても頼もしく感じ、楽しく活動することができたと思います。皆さんならもっと子どもの権利を広めることができるなど、いつもひしひしと感じながら、活動に参加させていただきました。今年度はとても楽しかったです。来年度もたぶん子どもサポーターを続けられることになると思うので、よろしくお願いいたします。



・今年で3年目になりますが、ますます楽しませていただきました。これも皆さんのおかげだと思っています。本当にありがとうございました。



・今年は初めて子ども会議に参加して、ねぶた祭りへの参加やイベント活動など、いい体験になりました。まちづくりの班では、交通などに一人ひとりがいろいろな意見を持っていたので、たくさんの意見が活かされてこれからはもっと青森市が良くなればいいなと思いました。一年間ありがとうございました。



・私は2年目の参加で、今年は高校生活の行事とかで去年よりも出席することができませんでしたが、けんりはかせを書いて、それが結構チラシに採用されて、学校でもらうチラシに私の書いた絵が入っていることがあって、そういう面では少ないながらも協力できたかなと思います。来年はもしかしたらますます出られる回数が減ってしまうかもしれないのですが、引き続き籍を置いて活動できるときはできる限り参加していきたいと思っています。ありがとうございました。



・私は2年目ですが、想像以上に部活と勉強が忙しくて、あまり参加できなかったのに、ポスターを描かせていただいたし、イベントでは劇にも出させていただいたし、ねぶたにも出たし、交流会には出させていただいたし、本当にいいところばかりで、楽しませていただきました。それも皆さんのフォローとか協力があったからだと思います。ありがとうございました。



あと、今日来られなかった委員と、松本市の委員からメッセージを預かっているので言わせてください。

まず、今日来られなかった委員から。「あまり活動には参加できなかったけど、優しくしてくれてありがとうございました。これからも頑張ってください。応援しています。イベントには時々顔を出したいと思っています。」ということでした。

松本市の子ども会ジュニア・リーダーから。「こんにちは。相変わらず小学生から高校生まで、いろんなことをして遊んだり学んだりしています。もう一度皆さんと交流する機会があったら交流したいと思っています。松本に来るときは連絡してください。お金と時間がたまったら青森へまた行きます。」ということです。

- ・今年度は昨年度に引き続き2年目となりました。今年度はねぶた祭りで権利を普及させることができたと思っています。来年度はさらに普及させることができるように頑張っていきたいと思っています。一年間ありがとうございました。



- ・私は今年度が初めてで、すべての活動が今までやったことのないものでとても緊張していました。それでもやりたいと言ったら、経験がないのにやらせていただいたりして、初めてにもかかわらずたくさんの経験をさせていただいたのでとても楽しかったです。来年度も続けてもっと子どもの権利条例を広めていきたいと思っています。



- ・今年度初めてこの活動をやって、いろんなことを体験して、いろんなことを思ったのですが、特にアンケート調査では、自分が思っているよりも人がいなかったり、アンケートに応じてくれない人がいたりして、いろんなことを調べるのは大変だなと思いました。この活動を一年間通して、本当に楽しいことばかりだったので、来年はちょっとできるかわからないですが、できるならやりたいなと思いました。一年間ありがとうございました。



- ・子どもサポーターをしています。今年度は本当に記憶に残ることが多くて、ねぶたで初めて普及啓発をしたら、大雨に降られてずぶ濡れになったり、イベントをやったらすごく会場が広くてびっくりしたり、自治体シンポジウムにも参加させてもらって、会ったことのない人とか他の地域の子ども会議の話とかを聞くと、子ども主体にしすぎて自由になりすぎているという意見もあったり、もっと子ども主体にしなければならないという話も聞いたので、来年度はもっと自由になってもいいのかなと思います。来年度も頑張ります。



続いて、子ども会議委員や子どもサポーターからの今年度の会議の活動に対する感想を受けて、市長から感想をいただきました。

市長からの感想

楽しかったとか来年も頑張りたいという話は大変ありがたいと思います。全国シンポジウムは、先ほどの話を聞いていくと他の市の子どもたちと交流できてよかったという話がありましたので、無理してやってよかったです。また来年も楽しみにしております。これからまた話を聞かせてください。



さらに、子ども会議委員や子どもサポーターから、来年度の子どもの会議の方向性などについての提案や市長への要望などをうかがいました。

子ども会議委員・子どもサポーターからの提案・要望

- ・松本市と交流会をやったのですが、お互いの意見を交換して、同じ子ども会議みたいな活動をしているのに、意見ややっていることとかも全然違って、とてもいい刺激を受けたので、もっと大人数で交流会とかやりたいなと思います。お願いします。
- ・今年、交通状況のアンケートをとったのですが、私の通っている学校は、すごく通学が不便なんです。電車もバスも少ない感じで。アンケートでもそういう意見が寄せられたりしていたので、

もう少し電車やバスの本数を増やしたり、乗換えをしやすくしてほしいなと思いました。



- まずは松本市のことですが、ただ行きたいということでもなくて、自治体シンポジウムでやったように、扱うテーマが僕たちと違ったりして、いろんな刺激を受け取れると思うので、いろんなところに行くことは大事だと思います。特に、松本の人に来てくれたので、今度は行く番だという感じもあると思います。

2つめですけど、僕は5年目なんですけど、もっと自由にこの会議ができるのではないかなと思うんです。松本の人たちは、行政のもとでやっているものでないからかもしれないですけど、子どもが主体で、子どもが自分たちでできないことは大人に頼むという感じで、大人は子どもに対してほとんど何も言わないらしいです。それができたらいいなと思っていました。シンポジウムが終わってイベントの準備をするときに、上からの圧力みたいなことが自分たちにもあるし、職員の方にもあったと思うので、そこらへんはちょっと多めに見ていただきたいなと思います。子どもたちが自分で失敗した成功したというのが残っているし、それを生かしてこの会議をやっていくべきだと思うので、極力、子どもたち主体でやっていける環境を整備していただきたいと思います。



- 景観を良くしてほしいというのがあります。私の学校で、青森の問題点について考えるということがあったんですけど、そのときに新町のシャッター街が少し目立つというのがあるが、シャッターをどうにかするというのが現状難しいというのは分かってるのですが、シャッターにイラストを書くなどして、もう少し景観が良くなれば新町の雰囲気良くなるのかなと思います。
- 私は、高校1年生のときに学校で職業体験に行ったんですけど、学校でやっている職業体験は、どうしても質疑応答しかなくて、実際に体験するとかそういう深いところまではいけないし、時間も3時間とかで限られていて、その仕事に興味を持つところまで発展していく可能性がすごく低いと感じたので、たとえば農業とか青森市特有の職業の体験などを提案していただくことで、青森で就職していただく方も増えていくのかなと思います。

青森ってこういうことしているんだよとか、青森ってすばらしいんだよということを知っていきける機会になるんじゃないかなと感じています。



- ・最近、新町とか古川通りとかに昔からずっとあるカフェや喫茶店とかに友達が行って、写真撮ったりして、SNSなどに載せています。そういうふうに、新町周辺の昔からあるお店が若い人に注目を浴びていることは、すごくチャンスだと思います。高校生が新町周辺を歩いて、今までわからなかったお店を発見して楽しむことは、活性化にとって良いことだと思うので、それをもっと企画できたらいいなと思っています。たとえば、カフェに行けば共通のスタンプをもらえとか、いろんなお店に行くといいことがあるよとかすれば良いと思います。

- ・自分は青森市内に来ることはなかなかないんですけど、久々に来ると景色が変わっているところもあれば、やっぱり変わらないところもあって、古くなっているけどちゃんとやっていたりして、そういうところを取り上げてあげて、クーポン作ったりとかスタンプラリーとかやったら楽しいんだろうなと思います。昔からあるということは、根強い人気があると思うので、できれば古いところが古いままでなくて入りやすい環境になればもっといいのかなと思うので、そういうもののためにもっと活性化すればいいなと思います。

- ・私もあまり青森に来る機会がないので、今日久しぶりに青森のまちを歩いてみて、何もなかったところにコンビニができていたり、いろんなものが変わっていたけど、変わらないものもあるし、古い喫茶店とかは分かりにくいところにある場合があるので、分かりにくいところにある古い喫茶店とかもどんどんこれから青森に住んでいる人とか県外から来る人とかにも人気のある場所になるように、もっと知られるような情報誌とかを作ればいいのかと思いました。



- ・私はまちを見るとパチンコ屋さんが多いと思っていて、子どもは遊べないので、手軽にスポーツや運動ができるところが増えていけばいいなと感じました。

- ・前に学校の授業で、青森市の良いところと課題について話し合い、良いところもたくさん出たん

ですが、課題も多く出て、短命県とか雪のこととか意見がたくさん出ました。本当はもっと良いところがいっぱいあるので、青森市内の人たちが自分たちの地域に誇りを持てるようにするとか、もっと市内の人が青森の良さに気づけるように、まずは青森市の中で市民の皆さんへのPRをしっかりと、それから他県に広めていけたらいいかなと思います。

- ・市営バスのことですが、北高校とか南高校とか交通が不便な場所に、空いているバスを高校生だけスクールバスみたいに運転していいのではないかなと思いました。

あと、ニュースか新聞記事で、通勤通学の定期券で区間外でも100円で利用できるというものを見たんですけども、定期券を持っている人だけだとちょっと限られた人になるのかなと思うので、定期券で高校生と一緒に遊びに行く仲間たちも割引になったりすると、高校生ももっとバスを利用するようになるんじゃないかなと思いました。

- ・私は青森市の好きなのところの一つとして、自転車が走りやすいというところがあります。でも、どうしても車と歩行者との折合いが難しいと思うし、車の通りが少ないところだと信号のない道路を横断してしまうこともあるので、そういう危険がないように気をつけようという告知も大事だと思います。さらに、道路を歩行者用と自転車用に分けて、通りやすいところを増やせば、もっと市民が外に出ていろんなところに行ってみようと思うことが増えるのではないかなと思います。



あと、雪のことですが、除雪がちょっと気になるなっていうのがあって、父の車に乗っているときに、道がでこぼこで怖いと思うときがありました。雪は青森にとっては財産でもあるので、両立するためにも、市民が安心して車で通ることができる道が増えればいいと思いました。

最後に、市営バスのことで、ときどき急ブレーキをするバスがあって、立って乗っている人にとって急ブレーキはとても危険なことだと思うので、それを注意していただけると嬉しいと思いました。注文に近くなりましたけど、お願いします。

また、児童福祉専門分科会の委員として、一年間、子どもたちの活動を見守っていただいた長内委員からもお言葉をいただきました。

長内分科会委員からの感想

青森市に100人委員会という一般の人がいろんな意見を申し上げる会がありまして、私もそのメンバーなのですが、今日の皆さんからの意見を聞きまして、そのことを委員会でお話する機会があるかもしれないので参考になりました。

私が申し上げたいのは、外国船が青森市によることが増えているということです。ダイヤモンド・プリンセス号とかです。皆さんにも、もしよければ来ていただいて体験していただきたい。英語がそれほどできなくても外国のお客さんとほんの少しでも触れ合っていたきたいです。体

験したいのであれば、1年間の寄港の日付が決まっていますので。高校生や大学生も常時5、6人はお手伝いしていますので、もしよかったら参加してください。外国人は割りと昭和和仏を見に行きたがるので、この前の100人委員会で、神社や仏閣を巡るツアーや体験するツアーの提案をしました。外国人と交流することは、将来どんな職業に就いても役立つことだと思います。芽を開かせる意味でも体験していただけたらありがたいです。



ここまで子どもたちから出た意見や提案に対して、市長から感想をいただきました。

市長からの感想

ありがとうございました。市営バスの意見などいろんな率直なお話をいただきました。できれば、今のようなやり取りを、最後の場面ではなく、年度途中でできればいいですね。たとえば今のような話を10月にして、3月にまたやって、「ところで10月のあの話どうなった？」という話があれば、「何もできませんでした。ごめんなさい。」とか、お返しができればいいなと思います。いろんな若い人ならではの意見が出てきてよかったと思います。ぜひ、新年度もまたぎっくばらんに、お互いにいろんなことを話し合えたらいいなと思いますので、よろしく願いいたします。今日は本当にありがとうございました。



そして最後に、市長をはじめ、子ども会議委員、子どもサポーター、児童福祉専門分科会委員の皆さんで記念撮影をして、「第1部 第10回青森市子ども会議」は終了しました。



【第2部 平成26年度子ども会議ご苦労様会】

続いて、子ども会議委員、子どもサポーターの皆さんと事務局で今年度の子ども会議の活動を振り返り、労う子ども会議ご苦労様会を行いました。

ご苦労様会では、ジュースで乾杯し、おやつを食べながら、子どもたちは自由な雰囲気子ども会議についてのトークで盛り上がっていました。

「またTシャツを作りたい。」「来年度もねぶた祭りに参加したい。」など、早くも来年度の活動に向けた話も飛び交っていました。



1時間ほどざっくばらんに皆さんで会話を楽しんだ後、事務局から来年度の子ども会議委員の募集についてお知らせをし、最後は、子ども会議委員による一本締めで本年度のすべての活動を終了しました。